

事業計画書

事業名	伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験 part 3 ～松戸市民による松戸市民のためのハザードマップ創り～事業
団体名	東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)</p>	<p>(取り組もうとする課題について、その現状や背景なども含めて明確に記載して下さい。)</p> <p>1. 避難者も災害時は松戸市民と同一行動をとらねばならない。</p> <p>助成事業 part 1 では避難者から学んだ。</p> <p>part 2 では避難者と一緒に事業を行った。</p> <p>part 3 では避難者も松戸市民の一員として参加する。28年3月で福島は自主避難者に対する住宅支援を終了する。他県もそれに追従すると思われる。その時には、松戸市に定住を決断する避難者も居ると思われる。</p> <p>2. 27年度助成事業の講演会時の意見交換から分かったこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の収容人員は、地域の住民をカバーできないこと。 その際、「近助」の助け合いが大切なこと。 <p>◆参考までに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸市地域防災計画によれば、隣近所、地域と協力し合って行動できるように、地域コミュニティの形成に努めることとある。 ・ゼンリンの防災意識調査によれば、自然災害について日ごろから意識していますか？意識している 30代 40% 40代 45% ちなみに 60代 60% ・避難所の場所をご存知ですか？ 30代 60% 40代 70% 60代 85% <p>この調査から分かることは、若い世代子育て世代・働き世代が危機感を持っていない。地域に関わっている時間がないのかもしれない。</p> <p>常総市では被災はハザードマップ通りに発生したという。「思い込み」という言葉が新聞の紙面に多く目に留まった。思い込みに気づくことが重要である。</p> <p>3. 27年度の助成事業、街歩き後のアンケート中から見えてきたこと。</p> <p>ハザードマップの見方が分からない。</p> <p>普段何気なく過ごしている街にこんなに危険があること、ただ避難すればいいわけではないことが分かった。</p> <p>4. 26年助成事業実施以来、一部の団体と協力関係が生まれている。実施したとき、講師として依頼する事ばかりに目が向き、一緒に事業を積み上げることに欠けていた。周囲には、たくさんの人的資源があることに気</p>
----------------------------	--

	<p>が付いた。(松戸市内の市民活動・NPO 団体など) 事業終了後、ある民生委員から誘ってくれればよかったのに・・・との言葉が重く残った。</p> <p>松戸市内の民間・市民の力を結集することが必要なことに気が付いた。</p> <p>5. 27 年度助成事業を実施してみて一方的な話より、参加者全員が関われる講座の方が、市民にとって印象として残り、今後の災害に役立つことを実感した。(参加者のアンケートから)</p>
<p>事業の目的</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 避難者も松戸市民と情報を共有し仲間となる。 避難者も災害時は松戸市民と同一行動をとらねばならない。 2. 地域の連携を深める。「近助」という 27 年度助成事業で知った言葉を広め、近隣の住民同士が助け合う大切さを広める。 避難所へ行く前に地域でカバーできることはないか話し合いの場を創る。 働き盛り・子育て世代の家庭の参加者の参加を勧める。 「思い込み」に目を向ける。 3. ハザードマップの見方が理解できるように講習会を実施すると同時に、家庭でハザードマップを作る興味を広げる。 松戸市危機管理課の力も借りる。 その後に街歩きを実施する。 地図作りは歩くことから始まる。(ゼンリンのホームページより) 更に松戸市地域防災計画によると、緊急輸送道路の記述があることを知った。市民にも広く知らせたい。 4. この助成金事業を活用し周囲の豊富な人的資源の力を借りる。(松戸市内の市民活動・NPO 団体など) 事業開始から、関わってもらい成果を共有する。 終了後、報告集を創り市民の防災上の参考になる内容を盛り込む。 ブログに掲載する。 5. 全員参加ができるゲーム感覚の講座を実施し、防災意識を市民に植え付ける。

事業内容

(どのような課題の解決につながっていくのかが、わかるように事業内容を記載して下さい。)

1 事業内容

①防災地図の見かたの講習会と街歩き

27年度講師を務めて頂いた蓮本浩介氏にお願いして2回連続で参加していただく。

防災地図の見かたの講習会を実施する。危機管理課またはゼンリンのスタッフにもお願いする。

日を改めて街歩きと防災マップ作り。

町会・社協・地域防災リーダー・住まいの応援団にも参加をお願いする。

街歩きの地域を決めてお願いする。

お願いできる町会の腹案もある。

会場については、お願いする町会近くの市民センターを計画している。

②避難所運営ゲーム「避難所 HUG (ハグ)」を実施

HUG は、H(hinanzyo 避難所)、U(unei 運営)、G(game ゲーム)

の頭文字をとったもので、英語で抱きしめるという意味

参加者が一体感を持ち、仲間意識が盛り上がる。

危機管理課にお願いする。

会場は、危機管理課と相談し市民会館 301 室を予定している。

③報告集の作成

報告集の作成 1000 冊 (A 4 版 12 ページ)

盛り込む内容

家庭用防災マップの作り方・松戸市防災マップの見かたと使い方。

写真を多く入れる。

参加者他希望者に配布する。

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4 月		
5 月	講師交渉開始 各市民団体に声掛けする 会場の予約	蓮本氏には依頼済 危機管理課・社協・町会・住まいの応援団・子育て団体・ミドリ安全・
6 月	打ち合わせ	
7 月	広報掲載依頼 チラシの作成 チラシの配布	
8 月		
9 月	マップの見かた講習会 街歩き&マップ創り	
10 月	ハグの実施	危機管理課・社協・地域防災リーダー・他
11 月	報告集の作成に入る	参加者・社協・町会・住まいの応援団・子育て団体・ミドリ安全・
12 月		

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">1 月</td> <td style="text-align: center;">報告集の完成</td> </tr> </table>	1 月	報告集の完成
1 月	報告集の完成		
<p>既存の事業からステップアップする部分 ※ステップアップ助成のみ</p>	<p>(今までに実施してきた事業に比べて、どのような点をステップアップしたいのかを記載してください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 街歩きの前に、松戸市の防災地図を学ぶ。 2. 今回の事業には、地域の町会・社協・地域防災リーダーなど地域関係者を計画の段階からお誘いして行う。 3. 働き盛り・子育て世代の参加を呼び込む。 松戸市 PTA 連絡協議会・子育て団体・コープみらいにお誘いの広報活動を行う。 松戸市危機管理課の力も借りる。 4. 避難者も1松戸市民の形で参加する。 5. 27年事業で協力頂いた、ミドリ安全にも参加をお願いしてみる。 6. 27年度助成事業講演会会場にて、初対面同志の人的資源を持った方たちを紹介する役目を当団体が果たせた。そのつながりを一過性のものではなく、継続できるように28年度の事業を実施することにより潤滑油の役目を果たして行きたい。 7. 報告集の作成 家庭で街歩き・マップ作りに興味を持てるような報告集にしたい。 		
<p>事業の目標</p>	<p>(事業に取り組む上で、どれだけのことを達成したいのか、その目標を記載して下さい。)</p> <p>※事業の成果目標は、できるだけ数値などを用いて、具体的に記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 28年3月に向けて避難者の内、数家族は松戸に定住する事を選ぶと思われる。その家庭に松戸市民として地域に溶け込むきっかけを創りたい。 2. 街歩き・ハザードマップの見かたには、働き世代・子育て世代15人の参加を見込む。 3. 地域の市民団体・NPO団体など5団体の助力を仰ぐ(1団体から⇒5団体へ) 依頼型からプロジェクト型へ 4. 新たな参加者を増やす20名 5. 家庭で、ハザードマップ創りにチャレンジしてほしい。 6. 報告集の作成1000冊(A4版12ページ) 		
<p>今後の展望</p>	<p>(助成終了後の将来の展望を記載してください。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マップ創りを広めるため、出前講座を計画する。 2. 報告集を広める。 3. 防災講座の継続実施。 4. 引き続き、松戸市の出前講座もお願いする。 特にハグは、継続して各地域で危機管理課にお願いする。 その、開催を当団体で引き受けたい。 		

5. 家庭での防災マップ作り。

6. 子ども向けの防災事業にチャレンジしたい。

大川小でお子さんを亡くされた元教師が講演活動をされている。
家庭で子どもに防災の話をどう進めたらよいかなどに興味がある。

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	松戸・東北交流プロジェクト拠出金	¥ 72,300	
		自己資金の合計額 (A)	¥ 72,300
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 372,300	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 200,000	外部講師 蓮本浩介 50000円×2回 社協・町会・市民団体等100000円
	印刷製本費	¥ 95,000	報告集・チラシ 報告集1000部12ページ45000円チラシ 1000枚×2回×20円資料等1000枚×10円
	消耗品費	¥ 40,000	白地図・文具 A3白地図5000円×6枚・写真印画紙 文具10000円
	食糧費	¥ 7,000	ワークショップ用飲料
	賃借料	¥ 10,000	プロジェクター使用料
	通信費	¥ 12,300	切手代 82円×150人
	損害保険	¥ 5,000	75人 街歩き
		対象経費の合計 (D)	¥ 369,300
その他経費	食糧費		
	交通費	¥ 3,000	駐車場代
	その他経費の合計 (E)	¥ 3,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 372,300	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。